
人になった死神

深々

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

人になつた死神

【Nコード】

N9184M

【作者名】

深々

【あらすじ】

暇つぶしに書きました。

ベタすぎる展開なので・・・被ってたりしたらスイマセン。

（前書き）

罪という名の想いは親から子へと受け継がれる。

死神の少女はある日、人に恋をした

死神の少年はある日、人に恋をした

少女は死神だ。

死神の役目は死期の来た人間の魂を狩ること。

死神には愛や悲しみ、憎しみという感情も痛みを感じることもない。

ただ人の魂を肉体から取出し神の元へと運ぶだけ。
しかし、

——少女は人間に恋をした。

死神は恋をしない。

そんな感情を持ち合わせていない。
しかし、

——少女は人間に恋をした。

「な、何？この・・・胸が・・・どうしてこんなにも」

死神の寿命は長い。

「な、なんで！？・・・どうしてこの人の名前が・・・」

神から渡された魂を持つてくる者のリスト。

その中に彼の名前があった。

いつも上の世界から彼を彼女は見ていた。

「い、嫌だ・・・殺したくない・・・」

しかし、逆らうことは許されない。
そういう風に作られているから。
彼女は、想いを伝えたかった。

「死神なのに・・・なんで・・・？」

何故死神なのに恋をしたのだろうか、彼女にはわからなかった。
しかし、

——少女は人間に恋をした。

彼の余命は後1ヶ月。

彼女は悩んだ末に“禁忌”を犯す。

「あ、あの・・・。。さんですよね？」

「え？そうだけど・・・君、誰？」

少女は、人と接触した。

「えっと、実は同じ会社に勤めてたんですけど・・・知りませんでした？」

モチロンそんなのは嘘だ。

「う、ごめん・・・」

彼は申し訳なさそうに頭をかく。

「い、いえ、いいんです・・・ずっと、貴方のことが好きだったんです」

彼女は躊躇いもなく彼に告げた。

「え？えつと・・・その・・・」

「と、友達からで構いません！だ、だから・・・」

「あ・・・う、うん。わかったよ・・・ふふふ」

彼は優しく微笑む。

彼女は疑問に想い尋ねる。

「いや、友達から、なんてまるで青春時代に戻ったみたいだったから・・・」

彼は懐かしそうに遠くを見る。

そして、彼女は彼と2週間とすこしの時間を一緒に過ごした。

「あ、あのっ！」

「ん？なんだい？」

「っ、付き合ってください！」

彼女は勢いよく頭を下げる。

彼は優しく微笑みながら答える。

「ははは。つい最近までは全然知らなかったのに・・・いいよ」

彼は彼女に最高の笑顔を向けた。

そうして、彼女は彼と付き合い始めた。

しばらくして彼が不治の病だとわかった。

医師は、

「何故生きてるのか不思議だよ・・・」

とだけ言った。

彼女は知っていた。

彼が死ぬことを。

でも、それを覆すことはできない。

何よりこれ以上“禁忌”を犯すことは彼女にはできなかった。

彼の余命の最後の日。

二人は肌を重ねる。

最初で最後。

彼が死んでから一体どれくらいの日がたっだろう。

彼女はあの日初めて“悲しみ”を感じた。

しばらくして彼女は子供を生んだ。

死神と人間の子。

それを知った神は怒った。

彼女は神に必死で頼む。

「お願いします！この子だけは！この子だけは！」

彼女の願いは聞き届けられ、生まれた少年は死神として生きながらえる。

「おい。 。これが今日のノルマだ」

少年に上官の死神からリストが渡される。

少年は死神だ。

手に鎌を持ち、今日も人間の魂を集めに行く。

少年が魂を取りに行くと、

「お母さん！死んじゃヤダ！死んじゃヤだよお！」

病室で泣き叫ぶ少女。

その少女に手を握られて寝ている女性は衰弱しきっていた。

今日少年が魂を取りにきたのはその女性だった。

少年は鎌を持ち上げる。

死神の姿は人間には見えない。

ふと少年の心の中に躊躇いが生まれる。

…殺して・・・いいのか？これでいいのか？

少年はブンブンと首を横に振る。

…何を考えてるんだ僕は・・・

「お母さん！お母さん！」

少年は躊躇う。

しかし、魂を集めることは死神の義務である。

少年は鎌を振る。

「・・・お母さん？・・・お母さん！お母さん！」

少女の絶叫が少年の頭に響く。

泣き崩れる少女に、少年はどうしようもなく申し訳なく思った。
死神にはそのような感情はない。

しばらくして、

「　。これが今日のノルマだ。しっかりな」

渡されるリスト。

そこには忘れるはずもない少女の顔が乗っていた。

少女は交通事故で死ぬと書かれていた。

事故日は今日。

少年は少女の元へと向かう。

魂を狩りに。

そして少女を少年は見つけた。

ちょうど信号を渡るところだった。

横からトラックが走ってきている。

もちろん車の信号は赤。

よく見ると運転手は寝かけていた。

…何を考えてるんだ僕は・・・ちゃんと魂を集めなきゃ。

少女は気づかない。

トラックが少女を轢くまであとどれくらいだろうか。

少年にはそれが永遠に感じられた。

…ああ、もうすぐ…

少女にトラックが当たる瞬間、気づけば少年の体はうごいていた。死神にとってこれくらいの距離を詰めるには一瞬もいらぬ。

——キキイイイイ！！

少年は少女抱えて歩道に転がっていた。

少年は“禁忌”を犯した。

…ああ。僕は、この子が好きなんだ。

少年は初めて抱いた感情なのに、どこか懐かしむようになんの疑問もなくそう確信する。

「……た、助かりました……ありがとうございます」

そう言っただけ少女は少年にお礼を言っただけトラックの運転手に文句を言いに行った。

少女の死期は過ぎた。

偶然死期が延びることはない。

少女は“異端”になった。

これから先はその世界の“歪み”を正すために死神が彼女を殺してくるだろう。

「・・・さん」

「え？なんで私の名前を？」

「君は僕が守るよ」

「・・・??？」

そして、少年は“禁忌”を犯す。

——少年は、

——死神の羽を引き千切り、

——代わりに“恋”という羽を生やし、

——少年は、

——死神の鎌を捨て、

——変わりに少女の手を握る。

少年は初めて“憎しみ”という感情を抱いた。

「神よ・・・」

そして、少年は“反逆者”となった。

母の後をついで、

そして、母よりも重い罪を背負い、

少年は生きていく。

死神としてではなく、

“人間”として。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9184m/>

人になった死神

2010年10月9日17時27分発行